

## アートを活用した過疎地活性化に関する研究(2)

「越後妻有アートネックレス整備事業」における「大地の芸術祭」の文化面からの評価

小林 令明

### 目次

- 1 はじめに
- 2 住民意識調査の方法
- 3 調査の結果
- 4 考察
  - 4-1 調査地域(十日町市・中里村)の「大地の芸術祭」における意識の位置と傾向
  - 4-2 「大地の芸術祭」への批判の声
  - 4-3 予算の少額化への努力
    - 4-3-1 ボランティア活動隊
    - 4-3-2 若者へのボランティア参加意義の鼓舞
    - 4-3-3 芸術家は参加することで儲けられるか
    - 4-3-4 事業者側は儲けているのか
    - 4-3-5 地域住民によるボランティア
    - 4-3-6 誰が恩恵を受けているのか
- 5 結論

### 1 はじめに

アートを活用して過疎地を活性化しようとする新潟県妻有広域の「アートネックレス整備事業」は、平山征夫新潟県知事のかげ声により「ニューにいがた里創プラン」の第1号として、1998年発足した。「アートネックレス整備事業」は4つの事業を柱としている。すなわち①ステキ発見②花の道③ステージ

くり④大地の芸術祭である。この中で一番大きな存在として、「大地の芸術祭」がある。大イベントとして、世界的芸術祭を目指した「大地の芸術祭」は、「アートネックレス整備事業」の4つの事業の1つというより、他の3つの事業を配下におさめる形で北川フラム氏の総合プロデュースのもと、施設建設費を含め10年間に約15億円を投資するものと公表されている。120か国200人の芸術家を招聘し、2000年7月から3か月間第1回目が開催された。2回目は23か国157組のアーティストやグループが参加して2003年7月から50日間にわたり開催され、「人間は自然に内包される」のコンセプトのもと、過疎地である山里に彫刻造形物を主とする芸術品を設置し、東京をはじめ大都市を中心に日本全国から多くの関心が寄せられた。全国紙を含む新聞に135回報道され、TV、ラジオで20回企画報道され、2001年に「第5回ふるさとイベント大賞」を受賞した<sup>(1)</sup>。地域外の反応は熱く、このプロジェクトを高く評価する結果となった。多くの外部からの観客動員を得て、約20万人がこの過疎地に来訪した。1回目開催時より60億円多い1,884,000万円の経済波及効果を得たと事業者側は言う。

一方住民側の「大地の芸術祭」における反応は、どうであったのか。このプロジェクトの意義を理解し、経済波及効果を認め、地域文化に向上はあったのか。第1回大地の芸術祭開催前年の1999年に、筆者は1回目の住

キーワード：「アートネックレス整備事業」、「大地の芸術祭」、過疎地、住民意識調査

民意識調査を十日町市と中里村において行った。1回目意識調査と同一人物(170人)に、2回目意識調査を2004年3月に行った。その結果をふまえて、「大地の芸術祭」を文化面から考察する。

## 2 住民意識調査の方法

十日町市100人と中里村70人の年齢・性別による住民意識調査を1999年10月に1回目、2004年3月に2回目を実施した。(表1)

「アートネックレス整備事業」及び「大地の芸術祭」における内容と目的に対する10項目計16質問をした。調査は妻有6市町村の内、十日町市と中里村を対象とした。本来6市町村全てを調査対象とすれば最良であろうが、一定の傾向を捉えることを目的としたので、越後妻有広域中最大の人口を擁する十日町市と町村の中で中規模の中里村を選んだ。調査対象者は住民基本台帳より任意抽出した。アンケート記入は郵送方式を取った。

十日町市100人(男性50人、女性50人)、中里村70人(男性35人、女性35人)として、

1999年調査では、20代、30代、40代、50代、60代の代表として、25才、35才、45才、55才、65才の男性・女性を対象とした。5年後2004年調査では、同一人物が30才、40才、50才、60才、70才とそれぞれ年令を上げた。1999年調査と同一の質問を2004年調査においてもした。質問1、2-1、3、4、5、6-1、7-1、8、である。さらに2004年調査で新たに加えた質問は、2-2、2-3、6-2、7-2、7-3、9-1、9-2、10である。

回答者には、アンケート質問の内容を4段階に分けて意識の回答をしてもらった。1=知らない、思わない、良いとは思わない等、明解な否定の意識の表明とした。2=まあ知らない、まあ思わない、あまり良いとは思わない等、弱い否定の意識の表明とした。3=まあ知っている、まあ思う、まあ良いと思う等、弱い肯定の意識の表明とした。4=知っている、思う、良いと思う等、明解な肯定の意識の表明とした。

1、2と回答すれば悪い傾向になり、3、4と回答すれば良い傾向になる。2.5が中心になる。

表1 住民意識調査「人数と回答数」(1999年)

人口	十日町市						中里村					
	44,000人						6,600人					
	男 性			女 性			男 性			女 性		
歳	%	回答数	配布数	%	回答数	配布数	%	回答数	配布数	%	回答数	配布数
25	20%	2	10	20%	2	10	14%	1	7	43%	3	7
35	50%	5	10	40%	4	10	14%	1	7	43%	3	7
45	30%	3	10	30%	3	10	29%	2	7	29%	2	7
55	20%	2	10	50%	5	10	57%	4	7	86%	6	7
65	40%	4	10	40%	4	10	0%	0	7	0%	0	7
計	平均32.0%	16	50	平均36.0%	18	50	平均22.9%	8	35	平均40.0%	14	35
	十日町市全体 34% (無効票3含む)						中里村 31.4% (無効票1含む)					
	無効票による有効配布数-3による十日町市全体35.0%						無効票による有効配布数-1による中里村全体31.9%					
全体の回答意欲	無効票4を引いた有効配布数全166通中56通 56/166=33.7%											

\*無効票：十日町市「性別分らず35才1人、65才1人、性別年齢分らず1人」  
：中里村「性別分らず1人」

表2 住民意識調査「人数と回答数」(2004年)

人口	十日町市						中里村					
	44,000人						6,600人					
	男			女			男			女		
歳	%	回答数	有効配布数	%	回答数	有効配布数	%	回答数	有効配布数	%	回答数	有効配布数
30	33%	3	9	22%	2	9	20%	1	5	29%	2	7
40	22%	2	9	50%	4	8	29%	2	7	29%	2	7
50	33%	2	6	30%	3	10	14%	1	7	43%	3	7
60	30%	3	10	60%	6	10	50%	3	6	17%	1	6
70	11%	1	9	44%	4	9	0%	0	7	0%	0	7
計	平均25.6%	11	43	平均41.3%	19	46	平均22.6%	7	32	平均23.5%	8	34
	十日町市全体30/89 33.7%						中里村15/66 22.7%					
全体の回答意欲	有効配布数全155通中45通						45/155=29.0%					

\*住所移転で返却郵送されたもの十日町市11通、中里村2通、受け取り拒否中里村2通であった。これら計15通は、有効配布数から差し引いた。

### 3 調査の結果

#### 3-1 調査回答率の比較(表1, 表2)

十日町市は1999年35%であったのが2004年には33.7%に少し下がっている。

中里村は1999年31.9%であったのが2004年には22.7%に大幅に下がっている。両市村合わせて全体の回答率を比較してみると、1999年33.7%であったのが、2004年には29.0%に下がっている。

1999年調査は第1回大地の芸術祭実施の8ヶ月前である。2004年調査は第2回大地の芸術祭終了6ヶ月後に行っている。1999年33.7%と2004年29%の減じ方は何を表しているのであろうか。

年齢別で見ると十日町男性は30才の回答が2人から3人に増えた。40才が5人から2人に減じ、70才が4人から1人と大幅に減じた。十日町市女性は回答者数の変化はあまり無い。年齢別中里村においては、70才の男性・女性共に1999年、2004年も回答者0人である。中里村男性は大きな変化はないものの、女性の60才は6人から1人に大減した。

#### 3-2 質問内容における調査の比較(表3, 4, 5, 6)

##### 質問2-1 「アートネックレス整備事業」

##### を知っているか。]

十日町市男性平均1999年1.9が2004年2.8に上がり、十日町市女性平均では1999年2.1が2004年2.3で男女とも向上しているが、認知度は半分程度である。

中里村男性平均1999年1.9が2004年2.7に上がり、中里村女性平均では1999年2.1が2004年1.9で下がっている。

##### 質問2-2 「大地の芸術祭」は知っているか。]

2004年新設の質問である。十日町市男性平均2004年3.8で、十日町市女性平均2004年3.7である。中里村男性平均2004年3.9で、中里村女性平均2004年3.7であり、大変良く知っているのである。

##### 質問2-3 「大地の芸術祭」は、「アートネックレス整備事業」の一事業であることを知っているか。]

2004年新設の質問である。十日町市男性平均2004年2.4で、十日町市女性平均2004年2.3で認知度は悪い。中里村男性平均2004年2.7で、中里村女性平均2004年2.0であり、やはり良いとは言えず、女性の認知度は悪い。

「アートネックレス整備事業」の認知度は半分程度に対して、「大地の芸術祭」の認知度は大変良い。「アートネックレス整備事業」

は地元では「理想プラン」とも語られている。事業者側は「大地の芸術祭」一辺倒の宣伝で、「アートネックレス整備事業」はほとんど聞かれなくなったことが、悪い結果を出している。もともと事業者側の頭脳は「アートネックレス整備事業」は「大地の芸術祭」を実行することであった。

「アートネックレス整備事業」すなわち「理想プラン」は過疎対策の為の地域活性化事業である。「大地の芸術祭」は世界のアートイベントになることを目指している。このズレが住民には理解しにくいところである。「大地の芸術祭」を通してこの地がアートによる文化事業が有名になれば、世界から都会から人々が来て、地域の交流人口が毎年広がり、そこに新たな事業が浮かぶ構図造りがいまのところ鮮明ではない。以後向上するという確信が持てない状況がある。

**質問3 「アートネックレス整備事業」が地域の活性化に役立つと思うか。**

十日町市男性平均1999年2.8が2004年3.2に上がり、十日町市女性平均では1999年2.3が2004年2.4に上がっている。中里村男性平均1999年2.8が2004年2.4に下がり、中里村女性平均では1999年2.7が2004年2.7で同じである。十日町市は活性化に役立つと思う人が多くなり、中里村では役立たないという否定の気持ちがある。

**質問4 「アートによる活性化政策をどう思うか。」**

十日町市男性平均1999年3.2が2004年3.3に上がり、十日町市女性平均では1999年2.8が2004年3.2で男女とも向上している。

中里村男性平均1999年3.2が2004年2.4に下がり、中里村女性平均では1999年2.8が2004年3.0で上がっている。十日町市では大変良い活性化政策と見ているが、中里村では男性はやや悪い部類の活性化政策と見ており、女性はやや良い部類の活性化政策と見ている。

**質問5 「出現した施設、作品を見て、良い**

**里造りができると思うか。」**

十日町市男性平均1999年3.0が2004年2.7に下がり、十日町市女性平均では1999年2.4が2004年2.7に上がっている。

中里村男性平均1999年3.0が2004年2.2に下がり、中里村女性平均では1999年2.4が2004年2.3に下がっている。

1999年調査では、第1回「大地の芸術祭」実施前の作品やステージ建設が無い状態での調査であり、住民は分からないながら少々期待している数字であると今は読み取れる。2004年調査では2回の「大地の芸術祭」開催で出現した施設や作品を見て、見方が厳しくなり、良い里造りには難点を示している。しかし、十日町市の方が中里村よりこの事業に対して理解度が上である。今回の住民調査でボランティア協力した人が4人いた。十日町市70才の男性1人、中里村40才の男性1人と30才と50才の女性1人ずつである。十日町市70才の男性は4で大変良く、中里村3人の意見は40才の男性は2で否定的であるが、30才女性は3であり、50才女性は4である。この事業への理解を示していることは今後に期待できる。

**質問6-1 「外部から芸術家が来て、活動するのをどう思うか。」**

十日町市男性平均1999年3.9が2004年3.9で同じく大変良いである。十日町市女性平均では1999年3.0が2004年3.3に上がっている。

中里村男性平均1999年2.7が2004年3.5に上がり、中里村女性平均では1999年3.0が2004年3.6に上がっている。両市村共に外部から芸術家が来ることには高い理解を示している。

**質問6-2 「芸術家によるワークショップをどう思うか。」**

2004年新設の質問である。十日町市男性平均2004年3.6で、十日町市女性平均2004年3.6。中里村男性平均2004年3.6で、中里村女性平均2004年3.6であり、大変良い状況である。質問6-1、6-2で妻有に芸術家が来て、ワーク

ショップをすることを歓迎する住民の意志が確認できた。

**質問7-1 [10年間に150億円を投入し補助金で2/3が賄われ、広域負担は1/3であるがこの価値はあると思うか。]**

十日町市男性平均1999年2.7が2004年2.9に上がり、十日町市女性平均では1999年2.1が2004年2.6に上がっている。

中里村男性平均1999年2.6が2004年2.1に下がり、中里村女性平均では1999年2.2が2004年2.0に下がっている。十日町市が資金投入の理解を進めているのに対して、中里村は男女共に下がっている。これは事業に対する不信を表している。悪い状況である。

**質問7-2 [大きく儲けている個人、団体はあると思うか。]**

2004年新設の質問である。十日町市男性平均2004年2.9であり、儲けている個人、団体はまあいないと思う方向を示している。十日町市女性平均2004年2.4であり、少しいる方向である。中里村男性平均2004年2.3で、いる方向を示している。中里村女性平均2004年2.4で少しいる方向を示している。

**質問7-3 [どこが儲けていると思うか。]**

直接的な質問ではあるが、具体名を記入してもらったことにより、住民の内面の気持ちが出た結果となった。

十日町市男性1人(1人/11人中、9%)、女性7人(7人/19人中、37%)が記入している。中里村は男性4人(4人/7人中、57%)、女性5人(5人/8人中、63%)が記入をしている。十日町市男性は回答者に占める割合は9%で大変低く、女性は37%である。中里村においては男性57%、女性63%と高い疑りを持っている。

男性の比較では十日町市男性1人の記述に対して中里村男性4人であり、女性の比較では十日町市女性7人の記述に対して中里村女性5人である。十日町市より中里村が儲けている個人、団体がいると思ひ、男性より女性

の方が大きく儲けている個人、団体がいると思っている。

具体的記入内容では、事業者側を疑っているのは12件で、具体的には北川フラム、芸術祭の元請け、プロジェクト上部、官と企画者、ボランティア以外の事業者、1事業所が仕事をしている、1個人とそれに関係する少数団体、社会教育職員、村議地域振興会、事業者、十日町や役所関係、の記述があった。その内北川フラムのことを言っていると思われるのは6件である。その他、旅館宿泊関係3件。飲食関係1件。建設業2件。芸術家1件である。「どこか分からないが多分いる」と疑りの気持ちの表明が2件ある。

**質問8 [ボランティア協力できるか。]**

十日町市男性平均1999年3.0が2004年3.3に上がり、十日町市女性平均では1999年2.5が2004年2.9に上がっている。

中里村男性平均1999年2.7が2004年2.7で同じであり、中里村女性平均では1999年2.5が2004年3.2に上がっている。

両市村共にボランティア協力意欲はあり、今後に期待できる。

**質問9-1 [「こへび隊」を知っているか。]**

2004年新設の質問である。十日町市男性平均2004年3.3で、十日町市女性平均2004年2.8である。中里村男性平均2004年2.9で、中里村女性平均2004年3.2であった。全体平均は3.1で大変良く知られている状態ではある。

この質問には「良く知っている」4を回答した全20人いた反面、「全く知らない」1を回答した人全8人いて、「全く知らない」と回答した人の年齢も高齢者のみが「こへび隊」知らない状態ではなく、広報の難しさを感じずる。

**質問9-2 [「こへび隊」の活動をどう思うか。(質問9-1で「こへび隊」を知っている人のみ回答)]**

2004年新設の質問である。十日町市男性平均2004年3.6で、十日町市女性平均2004年3.5

である。中里村男性平均2004年3.9で、中里村女性平均2004年3.3で、大変良い活動と捉えている。

#### 質問10 [「きものながし(ひかる風船のGINGA)」をどう思うか。]

2004年新設の質問である。この企画は十日町商工会議所が作家「ワイドベース(平野治朗・斉藤精一)」と協働で、十日町中心市街地事業として企画したものである。市民に着物やゆかた姿で参加してもらい、電球を仕込んだ風船を携帯バッテリーからの電源で光らせ、2000人の参加した着物やゆかた姿の市民が光る風船を手に持ち、照明を消した町内を行進するのである。終点地点に到着すると光る風船を道路に置き、風にゆれる2000もの光の銀河を見る企画である。

十日町市男性平均2004年3.7であり、十日町市女性平均2004年3.5で大変良い状況であるが女性には3人の不回答者がいた。

中里村男性平均2004年2.8で、中里村女性平均2004年2.5であった。「知らない」と答えたひとは全6人であった。十日町市のイベントであったので、知らない人は当然いることになる。

## 4 考察

2回目の2004年調査の回答率29%が、1999年調査の回答率33.7%より下がったのは、1999年において住民は「アートネックレス整備事業」や「大地の芸術祭」の実態が良く分からなくても、多少期待するところがあり、興味があったと理解することができる。2004年には、2回の「大地の芸術祭」を見て意識がしぼんだか、自分の興味外のことであったと読み取れる。

質問3「アートネックレス整備事業」が地域の活性化に役立つと思うか。質問4「アートによる活性化政策をどう思うか。」質問5「出現した施設、作品を見て、良い里造りが

できると思うか。」以上3問が2回の「大地の芸術祭」を通して「アートネックレス整備事業」に対する住民の直接反応と言える。[「アートネックレス整備事業」が地域の活性化に役立つと思うか。]では十日町が良いと思ひ、1999年より男女共に向上しているのに対して、中里村では男性はやや悪い部類の活性化政策と見ているが女性はやや良い部類の活性化政策と見ている。「出現した施設、作品を見て、良い里造りができると思うか。」では、十日町では1999年より男性が下がり、女性が上がった。中里村では男女共に下がり、悪い結果が出ている。

#### 4-1 調査地域(十日町・中里村)の「大地の芸術祭」における意識の位置と傾向

地元の十日町新聞[2001年(平成13)1月20日]に第1回大地の芸術祭に対する住民アンケート調査を実施した3町(津南町、川西町、松之山町)の結果報告が載っている<sup>(2)</sup>。

『見出しに「3町の温度差が浮き彫りに」とある。「作品を見た人」松之山町約8割、川西町約7割、津南町約4割と差がつき、「大地の芸術祭に対する評価」も松之山町は6割強が「期待できる」としているのに対して、津南町は5割強の人が「地域振興の方法としてふさわしくない」としている。自治体ごとの温度差が如実に表れた結果である。』妻有広域6市町村では、それぞれ「大地の芸術祭」に対する事業評価を行っていることと記述されているので、事業評価に住民アンケート調査を行っていない自治体は、十日町市、中里村、松代町になる。筆者による今回の調査には、「作品を見た人」の質問がなかったので、十日町市、中里村の実態を他の妻有広域6市町村と比較することはできないが、大地の芸術祭に対する市町村の取り組み温度差があるとはよく聞かれることだ。一般的には松之山町、松代町、川西町の意識が高く、十日町市、中里村、津南町の意識が低いとされている。

筆者の住民意識調査は、十日町、中里村であるので、「大地の芸術祭」における意識の低い市村を調査したことになる。

両市村の中で十日町市が「大地の芸術祭」への理解を進める方向に傾いているのに対して、中里村は後退の方向に傾いている。

第1回大地の芸術祭が終了し、『第4回里創プラン推進協議会』の総会<sup>(3)</sup>で第2回大地の芸術祭が正式決定された時の公式ホームページで、第1回大地の芸術祭の反省が載っている。「第1回では多くの効果が生まれた反面、PR不足や取り組みの遅れなどから住民理解や参加がなかなか進まなかったこと、協賛金など収入の見込みに無理があったこと、シャトルバスを始めとした運営面など、多くの課題が出されており、プランづくりの段階から地域の皆さんが参加できる仕組みを整え、充実した芸術祭を目指して推進していくことにしています。」としているが、第2回「大地の芸術祭」では松之山町、松山町、十日町市は、この方向の進展があったが、本調査の結果を見ると中里村は進展が見られなかった。

これにはどのような原因があるのであろう。作家個人に支払われた予算の内訳は公表されていない事について、2001年1月に中里村議会全員協議会で公開要求が出されたが「里創プラン推進協議会」は公表しないとしめくくっている<sup>(4)</sup>。作家予算非公開が中里村での質問7-1、7-2、7-3での悪い結果であり、住民の代表である村議員の事業への不信感が住民の不信として進展が見られない結果と捉えられる。

#### 4-2 「大地の芸術祭」への批判の声

第1回「大地の芸術祭」においては、新聞、インターネットによって批判の意見を多く聞いた。が第2回「大地の芸術祭」においては、批判は何も聞こえなくなった。住民は「大地の芸術祭」を理解し受け入れたのだろうか。そうとは思われない。反対派はただ沈黙しただけと言える。住民の批判的な気持ちは今回

の住民意識調査で存在するのである。十日町市では「大地の芸術祭」ステージとなるキナーレ建設や「大地の芸術祭」そのものの批判票を取込み、市長選挙で現市長を誕生させたが、市長が「大地の芸術祭」賛成意見となり、批判の声はその頭を失ってしまった。十日町市は商工会議所の「大地の芸術祭」への積極的な協力姿勢があり、キナーレ、市長選挙という大きな政治的試練を体験して、より住民の理解が進んできたと言える。中里村は作家予算公開が無視されたまま、負担金減額方針から作品設置数を控え、積極的に動かなかった意識があった。市村によつてのこだわる出来事を通して、「大地の芸術祭」への理解を進める地域と後退への方向をとる地域の違いとなって表れて来た。

#### 4-3 予算の小額化への努力

##### 4-3-1 ボランティア活動隊

1回目大地の芸術祭においては、「こへび隊」800人、地元から「ほくほく隊」100人、「新潟大チーム」50人、の3ボランティアチームがあった。こへび隊には、もともと建築、美術を専攻する学生が多かったが、これ以外にも、語学系、生活系、他の学生がいる。第一回目には社会人の参加も目立っていた。

2回目大地の芸術祭においては、「こへび隊」800人のみになった。こうなった理由を考えると第一回目には、十日町市の現地事務局「越後妻有大地の芸術祭実行委員会事務局」と東京事務局である「アートフロントギャラリー内」が共にボランティアスタッフ募集を大きく展開していた。東京事務局からのボランティアが「こへび隊」であり、現地事務局からのボランティアが「ほくほく隊」、「新潟協力隊」である。第2回目には、東京事務局からしか聞こえて来なかった。

ともに重要な声かけ人は北川フラムであり、彼の精神なしにボランティア活動の根幹はなかったのである。現地には人々を動かしていく根源の思想が十分に備わってなく、雇われ

側の北川フラムに全面的頼った状態であるから、当然の結果と言える。

#### 4-3-2 北川フラムとボランティアの関係

「大地の芸術祭」はもともと無料で使えるボランティアの活動をなくして、プロジェクトの運営は成り立たない状況があった。予算においては、多数の作家を補佐する人員として、また「大地の芸術祭」に必要とされている多様な能力の件費をまかなう予算が用意されていなかった。多額の件費を予算化するより、実際の作品設置予算にあてた方が、実りと効果があがる計算をしていると思われる。この事業の最初からボランティアを頼みとしている計画であった。

ボランティアの活動は、①作家サポートボランティア②記録撮影ボランティア③芸術祭参加ボランティアの種類がある。<sup>(5)</sup>

活動内容は

① 作家サポートボランティアにおいて、木・石・鉄などの加工制作の技術協力、作品設置の作業補助、材料運搬、ワークショップの補助、外国語の日常会話程度の通訳、伝統・伝説・民話・風習等の情報提供、地域内移動の車の運転、名所等のガイド、作家滞在中の食事調理などがある。

② 記録撮影ボランティアにおいては、アーティストの視察・制作・設置等の撮影、作品設置状況と来訪客などの撮影、シンポジウム・講演会・ワークショップなどのイベントの撮影がある。

③ 芸術祭参加ボランティアについては、市町村に設置するトリエンナーレセンターで来訪者への会場やイベントの案内、トリエンナーレセンターの運営、記念式典・シンポジウム・ワークショップ・シアター・企画展示会などイベント運営がある。

外国人作家を例えて言えば、ボランティアの仕事内容は以下になる。外国人作家が来日すると、空港に向かえに行き、妻有の現地まで案内をする。当然英語やフランス語

が話せるボランティアが必要になる。現地において、作家到着までの作品設置の準備、協働する住民との連絡、通訳、作品設置の労働力、作品の維持管理、必要であれば外国人作家の離日まで補佐することになる。大地の芸術祭期間中は会場始まり時間から終了時間まで会場係になり、維持管理と観客への対応をする。「大地の芸術祭」終了後に作品撤去の場合には作業および手伝いをする。この多様な働きをするボランティアチームは、自ら名前を「こへび隊」と名付けた。

良き働き手の「こへび隊」にはただで参加できるわけではない。東京からの参加者は妻有まで、連絡バスを使用する場合において、事業費補填で無料になるが、他の場所から妻有に行く場合は自己負担である。宿舎は廃校小学校を利用し無料の共同生活であるが、朝食のおかず代と昼めし代は自前である。1回目には朝食100円、夕食200円のおかず代であったし、2回目は朝食100円、夕食300円であった。水や昼めしはコンビニ等で弁当を買っていくので、1日1,000円以上の自己負担に耐えられなければボランティア活動に参加できないのである。1日に1,000円払っても価値あることが、このボランティア参加者にはあったのである。

北川フラムはボランティア活動募集のための第1回説明会を1999年11月に行っている。この時に参加した重に美術系、建築系、他の学生30人程がリーダーメンバーとなった。

#### 4-3-3 若者へのボランティア参加意義の鼓舞

北川フラムは学生への参加意義の鼓舞に成功した。この時彼は学生達に何と言ったのであろう。ボランティアを募集するための「こへび隊」ホームページにあった「こへび隊って何？」から抽出したい。「この祭典の特徴としては参加アーティストの質の高さ、国籍の多様さなどがありますが、本質的には地域づくりを『人間、社会、自然の関係』という



普遍的テーマを今一度見つめ直しながら行うという点と、多様な人々の協働という従来にないスタイルにより行うという点に集約されます。従ってこの芸術祭は広大なフィールドを持ち、年齢、地域、分野を問わない参加者と雑多性から派生するコンフリクト（主義・主張の戦い）が実現に向けて必要なのです。このプロジェクトには一人一人が創造し、表現することの出来る場があります。各人が創造性を発揮し人間の複雑性を呈するアーティストとなって、同じく複雑性を呈する自然との関わり方を探れたらいいと思います。」

このプロジェクトの性質は、地域づくりを多様な人々との協働でやっていくと言う、これまでに無いやり方で挑戦していくとしている。参加することの時代的意義を説明し、かつ外国を含む質の高いアーティストと身近に接することの出来る利益のチャンスを提供している。ボランティアは言われたことをやるだけの消極的存在ではなく、自分からそれぞれの持っている能力を駆使して、創造性を発揮し、自分達からの企画にも挑戦するボランティアを求めると言っているのである。

若者は、自分の能力と体力を意義のあるものに活用したいと、常づね思っているのです、この時代的意義に敏感に反応した。

「こへび隊」メンバーの一人はこのプロジェクトの魅力性について語っている。このプロジェクトに共感し参加した仲間達の、信じることのできる強い友情、信頼、絆の大きさを言っている。さらに①アートとアーティストに関われること、②芸術を使つての町起こしの未知なる魅力、③地域活性化のイベントの意味への共感。を言っている。こへび個人に対しては、自分の能力を見つけることができること、自分の能力を使うことの楽しさを指摘している。困難で、根気のいるそれぞれの仕事に、興味ある自分の事として参加したので、1日1,000円払ってでも意味があったのである。

2001年に都市型の大型アートプロジェクトとして、「横浜トリエンナーレ2001」が開催された。これにもボランティアが動員されたが、妻有ほどの熱気は無かった。

都市と山里、自然、過疎地の今日的課題をアートに結び付け、常に理想を迫る姿勢で、若者を引き付けた北川フラムの力を認めるのである。

#### 4-3-4 芸術家は参加することでもうけられるか

作家は実際もうけているのか、ある若手作家は50万円で、制作・設置（住民協働があった）・維持・交通費・滞在費をまかなっていた。東京から十数回の行き来があり、赤字である。大学ゼミ関係は指導教員や多数の学生が参加するので制作50万円＋交通滞在に50万円支払われている。これも参加人数、遠距離の大学からの出品であれば、交通費によっては参加補助金程度になってしまう。もう一人の若手作家は330万円の中で、出来るものを出品してくれと北川氏に言われた。交通費・滞在費・制作費・運搬費・設置費込みである。有名作家は分かっているが、事業者側から支払われた資金で、全ての出費がまかなわれた作家はまれであり、大概は持ち出しになっている状態が濃厚である。殆どの作家達は家族がいたり、独立している立場であり、働いて儲けが出ないのであれば、これはボランティアの一種である。

このことが住民に理解されていないことは作家にも不利であろう。これは事業者側の非公開に原因があり、早期の情報公表と住民への分かりやすい広報が必要とされる。

#### 4-3-5 事業者側はもうけているのか

事業者側北川フラムの主催するアートフロントギャラリーには、1年間あたり1,000万円に相当する総合コーディネータ委託料が支払われている<sup>(7)</sup>。この額は「質問7-3」で住民が儲けていると疑う程の額なのかである。これは、一企業として東京の代官山に事務所を

構へる経費、所員もいるであろう人件費を考え、「大地の芸術祭」での北川氏の働きを考えれば、破格の安値と見るのが妥当であろう。氏もこの額では持ち出しになるであろうと推察される。

#### 4-3-6 地域住民によるボランティア

住民自身による、芸術家との作品制作における協働や何らかの参加がなされることもボランティアであり、小予算化に大いに寄与するが、地域文化の創造に直接影響するところで特に重要である。筆者の来訪した時の実感では、松之山町、松代町では無人小屋で近くの畑で作られた農産物やお年寄りが作ったであろう草履や特産物が安く売られ、きゅうりやとまとの美味しいことに来訪者は感動するのである。またおばあさんからのお茶と漬け物のふるまいをありがたくいただき、心が和む経験をした。一方中里村においては、住民は家にこもっていて、接触は一度もなかった。農産物の無人小屋も、住民によるお茶のもてなしも経験することはなかった。住民は来訪者との接触を拒んでいるようにも感じた。

#### 4-3-7 誰が恩恵を受けているのか

正当な工事費に対しての設計料率が決まっている建築分野のステージの建築設計事務所及び地元の建設施工会社以外は十分な利益を得ることは難しく、アートフロントギャラリーも芸術家(外国人作家は分からない)もこへびも役所関係も誰も儲けていないのである。外部者は皆貢いでいると言える。今回の住民意識調査では、十日町市は15人/30人中(50%)である住民がまあ誰も儲けていないと考えていて、中里村は3人/15人中(20%)の住民がまあ誰も儲けていないと考えている。住民も一定の理解はしているが、十日町市では半分のひとが儲けていると思っているし、中里村は8割の人が儲けていると考えている。理解への広報が上手くなされていないのは、失策である。

「こへび隊」の1人は地元の人々が豊かに

なればそれで良いと言っている。芸術家も同じ気持ちであろう。では誰が一番恩恵を受けるのか。それは住民でなければならない。それが皆の気持ちである。

## 5 結論

新潟県妻有の過疎地は農業の営みを通して、人間の手になる自然との大いに同居した過去では繁栄した農業文化地帯であった。今日的な工業化や商業化に出遅れたこの地は過疎地となってしまったが、21世紀にそのまま価値のない場所であるのか、この地の人間の手によってひらかれた中山間地で自然豊かな農業地は、芸術の文化では価値を持つものであるかも知れない。この地で生まれる芸術は都会から生まれた芸術とは違う特殊性を持つべきであるし、そこで新しく生まれる芸術は、住民との協働で生まれることが新しいのである。過疎地はあらたなる芸術の産婆場として馬小屋の役目を果たすことを期待されているのが「大地の芸術祭」の芸術面の意味である。住民側の「大地の芸術祭」の意味は何であろうか。地域文化への画期的な貢献である。地域文化は住民の意識そのものである。

アートイベントはアート博覧会で終わってしまう危険性がある。これは、美術館の企画展覧会と同じ範疇の思考であって、その展覧会期が終了した時、きわめて大雑把に一定の文化価値があったとするのと同じことである。「大地の芸術祭」もこれと同一であれば、失敗と言わざるを得ない。目的はアートによる地域住民の画期的な地域的創造への変化を求めているのである。これが地域の活性化の文化的意義である。ここに資金の使われ方の情報公開は当然のことであり、作家に渡した資金の内容を住民に伝えることは、正常な住民参加意識を求めるのに必要である。

全体には総合ディレクターの能力が優れていた故、ここまで来たが、これからいかに住

民側が主体的に展開していくか。北川フラムは妻有から去るときがやがて来る。それで失速する停止する妻有であれば、150億を費やし彼が懸命な努力を傾けた十数年間の行動は、妻有住民のものではなく、北川自身の功績だけになってしまう。2006年に開催が確定している3回目の大地の芸術祭は、住民のものになる行動を取れるか試されている。

本研究は「2003年度北星学園大学特別研究費」による研究である。

〔注〕

- (1) 「第5回ふるさとイベント大賞」総務大臣賞、日刊新聞58紙と（財）地域活性化センターが主催している。全国から183件エントリーして大賞を受賞した。
- (2) 十日町新聞 創刊明治41年、十日町市にある五日刊新聞、発行部数8000部
- (3) 2001（平成13年）1月17日に開催された第4回里創プラン推進協議会（会長：本田欣二郎十日町市長）の総会。広域6市町村の首長と新潟県地域政策課長で構成されている、実行計画決定の最高機関。
- (4) 2001年1月23日の中里村議会の全員協議会が「芸術作品各制作費の非公開」に対する反対意見が出された。これに対して「里創プラン推進協議会」の会長本田欣二郎十日町市長（当時）は、ファーレ立川や札幌ドームも公開していない事、世田谷区美術館では東京地裁が個人情報として公開できない判決をもって、公開しないとしている。（十日町新聞2001年1月20日、2001年11月10日記事）
- (5) 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2000、ボランティアスタッフ募集から。
- (6) 2000年9月、越後妻有大地の芸術祭実行委員会東京事務局「こへび隊」
- (7) 第2回大地の芸術祭 3カ年（平成13・14・15年度）事業予算

表3 1999年度 妻有アートネックレス整備事業に関する 住民意識調査 (十日町市)

十日町市 男性		質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8
		を「アートネックレス整備事業」を知っているか	かにがレス「アートネック」の地域活性化に役立つと思うか	アートによる活性化政策をどう思うか	出現した施設、作品を見て、良し里造りができると思うか	外部から芸術家が来て活動するかどうか	この3領域があるが、これ、3領域が負担は、10年間150億円の補助金が投入される	ボランティア協力をできるか
男性25才		2	2	2	2	4	2	1
		2	3	4	3	4		3
平均		2	2.5	3	2.5	4	2	2
男性35才		1	3	3	3	4	3	3
		3	2	2	2	4	2	3
		3	3	4	3	4	3	4
		3	2	2	3	3	2	3
		2	4	4	3	4	3	3
平均		2.4	2.8	3	2.8	3.8	2.6	3.2
男性45才		1	2	2	2	4	2	2
		2	3	3	3	3	2	3
		1	3	4	4	4	3	3
平均		1.3	2.7	3	3	3.7	2.3	2.7
男性55才		1	4	4	4	4	4	4
		3	3	4	4	4	3	3
平均		2	3.5	4	4	4	3.5	3.5
男性65才		1	4	4	4	4	4	4
		1	3	4	3	4	3	4
		3	2	2	2	3		3
		2	1	2	2	4	2	3
平均		1.8	2.5	3	2.8	3.8	3	3.5
各平均合計		9.5	14.0	16	15.1	19.3	13.4	14.9
質問別平均		1.9	2.8	3.2	3	3.9	2.7	3
十日町市 女性								
女性25才		1	2	3	3	3	2	1
		1	3		2	4	2	2
平均		1	2.5	3	2.5	3.5	2	1.5
女性35才		3	1	1	1	3	1	2
		1	1	1	1	1	1	1
		1	2	不回答	不回答	不回答	不回答	不回答
		1	3	4	3	3	2	2
平均		1.5	1.8	2	1.7	2.3	1.3	1.7
女性45才		1	1	3	2	2	2	3
		2	3	3	3	3	2	4
		3	3	3	3	4	4	4
平均		2	2.3	3	2.7	3	2.7	3.7
女性55才		3	3	4	4	不回答	不回答	不回答
		1	4	4	4	4	3	2
		2	2	2	2	1	1	
		3	3	3	3	4	3	3
		3	2	2	2	4	2	4
平均		2.4	2.8	3	3	3.3	2.3	3
女性65才		3	3	4	4	4	3	4
		3	2	2	2	3	2	2
		4	2	3	3	3	2	3
		4	1	1	1	2	1	1
平均		3.5	2	2.5	2	3	2	2.5
各平均合計		10.4	11.4	13.5	11.8	15.1	10.3	12.3
質問別平均		2.1	2.3	2.8	2.4	3	2.1	2.5

アートを活用した過疎地活性化に関する研究(2)

表4 1999年度 妻有アートネットワーク整備事業に関する 住民意識調査 (中里村)

中里市 男性								
	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	
	「アートネットワーク整備事業」を知っているか	「アートネットワーク整備事業」が地域の活性化に役立つと思うか	アートによる活性化政策をどう思うか	出現した施設、作品を見て、良里造りができると思うか	外部から芸術家が来て活動するかどうか	これ、3つの価値はあるか	10年間150億円の補助金で、3人の負担は	ボランティア協力をできるか
男性25才	1	3	3	3	3	3	2	
平均	1	3	3	3	3	3	2	
男性35才	2	1	1	2	4	2	2	
平均	2	1	1	2	4	2	2	
男性45才	2	3	3	3	3	2	3	
	1	3	3	3	3	3	3	
平均	1.5	3	3	3	3	2.5	3	
男性55才	不回答	3	4	不回答	4	3	4	
	2	2	4	3	4	3	3	
	1	3	4	4	4	4	3	
	3	2	2	3	3	2	3	
平均	2.5	3.5	3.5	3.3	3.8	3	3.3	
男性65才	回答者なし							
各平均合計	7	10.5	10.5	11.3	13.8	10.5	10.3	
質問別平均	1.8	2.6	2.6	2.8	3.5	2.6	2.6	
中里村 女性								
女性25才	1	3	3	3	3	2	2	
	1	1	3	1	4	1	1	
	2	4	4	4	4	3	3	
平均	1.3	2.7	3.3	2.7	3.7	2	2	
女性35才	2	2	2	2	3	2	2	
	3	2	3	3	4	2	3	
	2	3	3	3	4	3	4	
平均	2.3	2.3	2.7	2.7	3.7	2.3	3	
女性45才	4	3	3	2	3	1		
	1	2	3	3	4	3	3	
平均	2.5	2.5	3	2.5	3.5	2	3	
女性55才	4	4	4	4	4	4	4	
	3	3	3	3	3	3	4	
	3	3	3	2	3	2	3	
	4	3	4	3	4	4	4	
	1	1	1	1	2	1	1	
	3	1	1	1	2	1	2	
平均	3	2.5	2.7	2.3	3	2.5	3	
女性65才	回答者なし							
各平均合計	9.1	10	10.8	10.2	13.9	8.8	11	
質問別平均	2.3	2.5	2.6	2.6	3.5	2.2	2.8	

表5 2004年度 妻有アートネックレス整備事業に関する 住民意識調査(十日町市)

十日町市		男性														
	質問2-1	質問2-2	質問2-3	質問3	質問4	質問5	質問6-1	質問6-2	質問7-1	質問7-2	質問7-3	質問8	質問9-1	質問9-2	質問10	
	「アートネックレス整備事業」を知っているか	「大地の芸術祭」は知っているか	「大地の芸術祭」であるを知っているか	「大地の芸術祭」は「アートネックレス整備事業」が地域の活性化に役立つと思えるか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか	「アートネックレス整備事業」が地域の活性化政策をどう思うか
男性30才	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2		4	4	4	4	
	3	4	4	4	3	3	4	4	3	2		4	4	4	4	
	3	4	3	3	3	1	3	2	1	1	北川フラム	1	3	3	3	
平均	2.3	4	3.7	3.7	3.3	2.7	3.7	3.3	2.7	1.7		3	3.7	3.7	3.7	
男性40才	4	4	1	1	3	1	4	4	1	3		4	4	4	4	
	3	3	1	3	2	2	3	3	3	3		2	1	知らないで回答なし	3	
平均	3.5	3.5	1	2	2.5	1.5	3.5	3.5	2	3		3	2.5	4	3.5	
男性50才	3	4	2	3	2	3	4	4	4	3		3	3	3	4	
	1	4	1	3	3	3	4	4	2	3		3	3	3	4	
平均	2.0	4.0	1.5	3.0	2.5	3	4.0	4.0	3.0	3.0		3.0	3.0	3.0	4.0	
男性60才	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3		3	3	3	4	
	1	4	1	4	4	4	4	4	4	3		4	4	4	4	
	3	4	2	3	3	3	3	3	2	3		3	3	3	2	
平均	2.3	3.7	2	3.3	4	3.3	3.3	3.3	3	3		3.3	3.3	3.3	3.3	
男性70才	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		無料休憩所4	4	4	4	
平均	4.0	4.0	4.0	4	4	4.0	4.0	4.0	4	4		4	4	4	4	
各平均合計	14.1	19.2	12.2	16.0	16.3	14.5	19.3	18.1	14.7	14.7		16.3	16.5	18.0	18.5	
質問別平均	2.8	3.8	2.4	3.2	3.3	2.7	3.9	3.6	2.9	2.9		3.3	3.3	3.6	3.7	
十日町市		女性														
女性30才	1	3	1	2	3	2	3	3	2	2		2	1	知らない	不回答	
	4	4	4	3	3	3	4	4	2	3		3	4	4	4	
平均	2.5	3.5	2.5	2.5	3	2.5	3.5	3.5	2	2.5		2.5	2.5	4	4	
女性40才	2	3	1	3	3	3	4	4	3	3		不回答	1	知らない	4	
	3	4	3	2	2	2	2	3	2	1	芸術祭の元請け	3	3	3	2	
	1	3	1	2	3	3	3	4	2	3		どちらとも言えない	1	知らない	4	
	3	4	3	3	3	3	4	4	3	3		3	3	不回答	3	
平均	2.3	3.5	2	2.5	2.8	2.8	3.3	3.8	2.5	2.5		3.0	2	3	3.3	
女性50才	1	4	1	4	4	3	4	4	3	2		3	2	知らない	3	
	1	4	1	3	4	3	3	4	3	1		3	4	4	4	
	3	4	4	2	3	3	4	4	3	2	アーティスト、プロジェクト上部	3	4	3	3	
平均	1.7	4	2	3.0	3.7	3.0	3.7	4	3.0	2.5		3.0	3.3	3.5	3.3	
女性60才	3	4	3	2	2	2	2	3	2	2	宿泊所、ある一部に集中しているのでは	3	3	3	不回答	
	4	4	4	3	3	2	3	4	3	3		3	4	4	4	
	3	4	2	3	3	4	3	4	2	3		3	1	c	2	
	3	3	3	2	2	1	1	1	2	2	建設業、芸術家	2	3	3	4	
	2	4	2	3	4	3	4	4	3	2		3	4	4	4	
	3	4	3	3	4	2	1	4	3	2	宿泊所、飲食関係	4	4	4	4	
平均	3	3.8	2.8	2.7	3	2.3	2.3	3.3	2.5	2.3		3	3.2	3.6	3.6	
女性70才	1	3	1	2	2	2	2	2	2	2		2	2	知らない	3	
	4	4	4	不回答	4	不回答	4	4	3	4		4	4	4	不回答	
	2	4	2	3	4	3	4	4	3	1	官と企画者	4	4	3	4	
	1	3	1	4	3	3	4	4	3	2	建設業	2	1	知らない	3	
平均	2	3.5	2	3	3.3	2.7	3.5	3.5	2.8	2.3		3	2.8	3.5	3.5	
各平均合計	11.5	18.3	11.3	13.7	15.8	13.3	16.3	18.1	12.8	12.1		14.5	13.8	17.6	17.7	
質問別平均	2.3	3.7	2.3	2.7	3.2	2.7	3.3	3.6	2.6	2.4		2.9	2.8	3.5	3.5	

表6 2004年度 妻有アートネックレス整備事業に関する 住民意識調査(中里村)

中里村 男性															
	質問2-1	質問2-2	質問2-3	質問3	質問4	質問5	質問6-1	質問6-2	質問7-1	質問7-2	質問7-3	質問8	質問9-1	質問9-2	質問10
	「アートネックレス整備事業」を知っているか	「大地の芸術祭」を知っているか	「大地の芸術祭」の整備事業であるのを知っているか	「アートネックレス」の活性化に役立つと思うか	「アート」による活性化政策をどう思うか	出現した施設、作品がでけると思うか	外部から芸術家が来て活動するをどう思うか	芸術家によるワークショップをどう思うか	10年間に150億円を投じて補助金2億/3億あるか	大きな団体がいてると思うか	どこが儲けていると思うか	ボランティア協力でできるか	「こへび隊」を知っているか	「こへび隊」の活動をどう思うか	「きものながし」(GIN)をどう思うか
男性30才	1	4	1	1	1	1	3	4	4	2	ボランティア以外の事業者	2	4	4	知らない
平均	1	4	1	1	1	1	3	4	2.7	2		2	4	4	
男性40才	4	4	4	3	3	柳原参加者4	4	柳原参加者4	柳原参加者1	3		4	4	4	知らない
	2	3	2	2	2	2	3	3	1	2	1事業所が仕事をしている	2	2	3	知らない
平均	3	3.5	3	2.5	2.5	2	3.5	3.5	1	2.5		3	2.5	3.5	
男性50才	3	4	4	3	3	3	4	4	2	2	1個人とそれに関係する少数団体	3	4	4	3
平均	3.0	4.0	4.0	3.0	3	3	4.0	4.0	2.0	2.0		3.0	3.0	4.0	3.0
男性60才	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3		3	4	4	3
	4	4	1	3	2	2	2	2	2	3		2	1	知らない	知らない
	3	4	3	2	3	2	4	3	2	2	社会教育職員、村議地域振興会	3	1	知らない	2
平均	3.6	4	2.7	3	3	2.7	3.3	3	2.7	2.7		2.7	2	4	2.5
男性70才	回答者なし														
各平均合計	10.6	15.5	10.7	9.5	9.5	8.7	13.8	14.5	8.4	9.2		10.7	11.5	15.5	5.5
質問別平均	2.65	3.9	2.7	2.4	2.4	2.2	3.5	3.6	2.1	2.3		2.7	2.9	3.9	2.8
中里村 女性															
女性30才	1	4	1	3	3	(柳原に参加)3	(柳原に参加)3	4	3	4		4	4	4	2
	2	4	2	2	3	3	4	4	2	2		3	3	3	3
平均	1.5	4	1.5	2.5	3	3	4	4	2.5	2.5		3.5	3.5	3.5	2.5
女性40才	2	4	3	2	2	2	3	3	2	3		3	2	知らない	3
	4	4	4	3	3	2	4	4	2	2	事業者、十日町や役所関係	3	4	4	2
平均	3	4	3.5	2.5	2.5	2.0	3.5	3.5	2.0	2.5		3.0	3	4	2.5
女性50才	3	4	3	3	3	3	3	4	2	2	旅館関係	3	3	4	3
	2	4	2	3	4	タイトルアートに参加4	タイトルアートに参加4	4	3	3	一部の評論家で芸術家予算を決定するな	タイトルアートに参加4	4	4	知らない
	1	3	2	3	3	2	4	4	2	2	どこか分らないがたぶんいる	3	3	3	知らない
平均	2	3.7	2.3	3.0	3.3	2.3	3.7	4	2.3	2.3		3.0	3.3	3.7	3.0
女性60才	1	3	1	3	3	2	3	3	1	2	どこか分らない巨額資金の使用に疑問	不回答	3	2	2
平均	1	3	1	2.7	3	2	3.0	3.0	1.0	2.3			3	2	2
女性70才	回答者なし														
各平均合計	7.5	14.7	8.3	10.7	11.8	9.3	14.2	14.5	7.8	9.6		9.5	12.8	13.2	10.0
質問別平均	1.9	3.7	2	2.7	3	2.3	3.6	3.6	2	2.4		3.2	3.2	3.3	2.5

表7 アンケート内容

質問1. あなたの年代は、性別は、お住みの場所は、

[20代、 30代、 40代、 50代、 60代、] [ 男性、 女性、] [ 十日町市、 中里村 ]

質問2-1. 「アートネックレス整備事業」を知っていますか。

[①知らなかった、 ②あまり知らなかった、 ③まあ知っていた、 ④良く知っていた、]

質問2-2. 「大地の芸術祭」は知っていますか。

[①知らなかった、 ②あまり知らなかった、 ③まあ知っていた、 ④良く知っていた、]

質問2-3. 「大地の芸術祭」は、「アートネックレス整備事業」の一事業であることを知っていましたか。

[①知らなかった、 ②あまり知らなかった、 ③まあ知っていた、 ④良く知っていた、]

質問3. アートネックレス整備事業は、妻有広域の魅力度を再発見し、アート(芸術)によって地域の魅力を高め、住んでいる人々の誇りを高め、外部から入って来る観光客、芸術関係者の交流人口を増やして地域の活性化を目指す事業です。あなたは、アートネックレス整備事業が地域の活性化に役立つと思いますか。

[①役立つとは思わない、 ②あまり思わない、 ③まあ思う、 ④良く役立つと思う、]

質問4. アート(芸術)によって地域の活性化を図る政策をどう思いますか。

[①良いとは思わない、 ②あまり良いとは思わない、 ③まあ良い、 ④良いと思う、]

質問5. 第2回目の「大地の芸術祭」を終えて、300人以上のアーティスト(芸術家)が日本を含む世界中から妻有にやってきました。作品を作り、この地に設置をし、第3回目においても作品設置をしていく予定です。芸術作品と共に、公共整備も行われました(キナーレ、妻有大橋横のアスファルト・スポット駐車場、倉俣柳原のポスト・インダストリアル・メディテーション、松代雪国農耕文化センター、松之山森の学校キヨロロ、等)。この事業によって皆さんの住んでいる妻有地域は、良いづくりができると思いますか。

[①出来るとは思わない、 ②あまり思わない、 ③まあ思う、 ④良く出来ると思う、]

質問6-1. 外部から芸術家が来て妻有の地で活動する事をどう思いますか。

[①良いとは思わない、 ②あまり良いとは思わない、 ③まあ良い、 ④良いと思う、]

質問6-2. 外国人を含む多くのアーティストが各地でワークショップ開いて、地域の人々との交流をしております。この活動をどう思いますか。

[①良いとは思わない、 ②あまり良いとは思わない、 ③まあ良い、 ④良いと思う、]

質問7-1. 「芸術」が、地域を良い方向に変えて行くというこの事業4つのプロジェクトに、県や妻有広域6市・町・村はお金を投入しています。(10年間に約150億円の予定ですが、補助金で約2/3がまかなわれ、妻有広域負担は、約1/3です。)この負担金額の価値はあると思いますか。

[①価値はない、 ②あまり価値はない、 ③まあ価値はある、 ④充分価値はある、]

質問7-2. この事業で、誰か大きく儲けている人、団体があると思いますか。

[①結構いると思う、 ②少々いると思う、 ③まあいないと思う、 ④全くいないと思う、]

質問7-3. 前問のこの事業で、誰か大きく儲けている人、団体が①結構いると思う、②少々いると思う、と答えた方に、どこが儲けていると思うかお書きください。(個人的秘密は守られます。)

質問8. 「大地の芸術祭」は、妻有の為に選ばれたアーティスト(芸術家)が作品を作り来ますが、住んでいる皆さんの協働参加が期待されています。つまり、一緒に造るということです。これにできる範囲ですが、あなたは、「知恵、労力、機材、技術、材料、親切、」等のボランティア協力(好意なので無報酬)したいと思いますか。

[①協力したくない、 ②あまり協力したくない、 ③まあ協力したい、 ④協力したい、]

質問9-1 「こへび隊」の存在を知っていますか。

[①知らない、 ②あまり知らない、 ③まあ知っている、 ④良く知っている、]

質問9-2前問の「こへび隊」について ③まあ知っている、④良く知っている、と答えた方にご質問します。

「こへび隊」の活動をどのように思っていますか。

[①良くない活動だ、 ②あまり良い活動ではない、 ③まあ良い活動だ、 ④良い活動だ、]

質問10. 十日町の「きものながし(光る風船のGINNGA)」をどう思いますか。

[①良いとは思わない、 ②あまり良いとは思わない、 ③まあ良い、 ④良いと思う、]



[Abstract]

**Research on Revitalizing Depopulated Regions  
through the Use of Art (Part Two):  
Evaluation of the Cultural Aspects of the Nature Art Festival and  
"Echigo Tsumari Art Necklace Construction"**

Reimei KOBAYASHI

"Art Necklace Construction" is a strategy of Niigata Prefecture's Tsumari Region to revitalize depopulated areas through the use of art. Its four foundational tasks are (1) discovering beauty, (2) planting flowers beside roadsides, (3) stage-setting, and (4) holding a Nature Art Festival. The Nature Art Festival is the largest among these. A grand-scale event which seeks to attract world-class nature art, the Nature Art Festival cannot be accurately described as merely one of the four foundational tasks. Rather, it dominates the other three. It has been publicized as an event under the overall production supervision of Furamu Kitagawa, with a cost of approximately 15,000,000,000 yen, including construction expenses, over a ten-year period. Festival organizers report receiving approximately 200,000 visitors to this depopulated region, many from outside their prefecture, and receiving an economic stimulus of 18,840,000,000 yen. The response from those outside the region has been very enthusiastic, and the project has been highly acclaimed. The following evaluation of the cultural aspects of this Nature Art Festival includes how residents of the region view the project, based on the results of a two-part Residents' Opinion Survey.

